

里山歳時記 田植えキャンプ

- 開催日 2019年5月25日
- 会場 国際自然大学校 日野春校（山梨県北杜市）
- ディレクター名 鷲田 晋（ワッシー）

■キャンプのねらい

●田植えを通じて、食べ物を作る大変さを体験し、食べ物を大切に作る心を育む。

■同行スタッフ（キャンプネーム）

ほっそー、こぱりん、まっく、きのこ、まいまい、ラミ

■活動内容

<午前>
集合、
田植え
昼食（諏訪神社にて）

<午後>
田植え
ふりかえり



晴天です。ハケ岳をバックに田植えがはじまりました。



1苗でお茶碗1杯。心を込めて植えました。



昼食は、ちらし寿司やよもぎだんごなどのご馳走でした。



お昼ご飯は近くの諏訪神社で。野外で参加者同士の会話も弾みました。



午後も引き続き田植え。植える手つきも様になっています。



最後に子ども達は泥遊びをして楽しみました。

■キャンプのエピソード

ビルの屋上で田植え

プログラムの冒頭に参加者の自己紹介の時間があります。参加の動機についてあるお母さまから次のようなコメントをいただきました。「娘がビルの屋上で田植えをしている場面を見て、お米ってビルの屋上で作っていると思っているようです。お米は田んぼで作るということを教えたくて連れてきました」。調べてみると、六本木や銀座の高層ビルの屋上でいくつものお米プロジェクトが行われているようです。CSRとして取り組んでいるようですが、ビルの田んぼしか知らない子ども達に、本当の大地での田植えの機会を拡げていきたいと感じました。

大人が夢中

暑さのせいと、参加した子ども達が年齢が低い事もあって、田植え開始30分で子ども達は少し飽き気味。一方大人たちは田植えの仕方に慣れてきたこともあって、「面白くなってきた」と楽しそうな表情でした。神社での昼食時も「親子田植えなのに、大人が夢中になっているね」「子どもが途中で植えなくなっても、私は最後まで植えるわ」とやるき充分の発言が多々見受けられました。親子田植えは子ども達より親が田植えをしたいということで、申し込みをしてくる方が少なくありません。最後に子ども達は泥遊びをして楽しんだのですが、その一方で、「もう少し上植えたかったなあ」と残念そうに田んぼを見つめる大人たちの姿が対照的でした。。